

## 混合名簿が市議会に 出された!

9月16日 市議 堀江ひとみさんの

混合名簿についての質問を支援するため

ばってんぐーまん達は市議会傍聴に出かけました。

(堀江さんの発言)

オレは混合名簿についてです。

従来「あたりまえ」と思われてきた社会通念や慣行での男女差別について、さまざまな場面で女性たちが異議をとなえてきて久しくなります。学校の出席簿が男性が先になる事への疑問はその一つです。こうした疑問をいっぺんに「おしいことだ」と認識している人が少なくない中で、89年には堺市のすべての公立学校での男女混合名簿使用決定を行い、昨年からは大阪府教育委員会も混合名簿を積極的に推奨しています。今更「あたりまえ」と思われていたことが、実は明確な男女差別だったのです。

男子が先、女子が後という名簿が、何故性差別なのか、それは無意識のうちに男子優先を教えていることになり、女子は男子に従属するという意識を植え付けているからです。まづは男女平等の観念に戻ります。これは、女子が先だとかいうのかという問題ではなく、男女の性別にとらわれず、一人の人間として、対等な関係を作っていくことなのではないでしょうか。

県教育委員会のお話は、出席簿の実務的な指針となる事務規則(案)は、あくまでも見本であり、強制力はない。各市長村で検討していただくというのでした。そうであるならば、市教育委員会の男女平等の感覚が問われる問題と見て、言い過ぎではありません。

① 従来の名簿を女性差別と認識されているかどうか。

② 前回の同僚議員の質問「男女平等教育推進の検討をお願いたす」と答えているが、その後の取組について。



堀江さんの発言がはじると同時に、保守系議員の私語が目立つ。「何しほのせ!」のドナリ声 (意味不明)

「おしいことだ!」のドナリ声より、いっぺんが一段と大きくなる。

「何が不平等か!」  
「差別じゃねのさーもん」  
と大声で叫ぶ  
153人、保守系議員席から。

③ 混合名簿を実施する考えが ありかどうか。おたね教します。

「そんなら 混合名簿を作れ！」という大声のヤジが 民社党の議員席からあつた  
激場であつたヤラザラ笑い。

教育長：市教育委員会の定めた出席法は、男女別々に定めてある。正確な事務処理のためであり、差別ではないと思つてゐる。しかしその中に起因して差別がある事は仕方のない。換算中に充分、男女差別をしない教育をすればいいと思つてゐる。今、混合名簿を実施してゐるのは少数の自治体である上、文部省の具体的な指示がない。用心を持って混合名簿を実施してゐる自治体の見学などしてゐるが、今後のあり方を見守りたい。

堀江さん：「必要性におつて男女別の名簿にする」とおっしゃられたが、それは「慣行ではない」といふ事ですか？

教育長：事務処理上の必要性で、慣行ではない。

堀江さん：生まれた時から、男性であるが故に優遇されつづけた男性に、この事が理解出来るかどうかの現場では、混合名簿でも何ら事務処理上支障ない、といふ声があるが、その意見を聞きたい。

教育長：出席法の形式として差別との判断をした事はない。差別はあつてはならない。それと別の教科で差別排除の教育をしてゐる。

堀江さん：男女平等教育の推進の観点から、これは仕方のない御存じですか。慣行のものを見直せ、というのが現在の国際世論です。

教育長：名簿だけを混合にしても、やはり男女別の補助名簿を作る事になる。

「このあたりで、さんざんヤジを叩いた議員達は居眠り！」

統計上、性を分けて処理するシステムがあり、そのシステムを解消しきれないが、やりだめだ。

堀江さん：そのシステムを見直す姿勢を持ってほしい。



答弁する側に着席してゐる市の部課長34名は、おたね男性、というおたねい存。男だけ、女の問題に答へようとするのかしら？

「女性行政推進室長でもある市の女性センター・アマラス」の所長は、どうしてこの場に居ないのか？ 居たらどうも意見を言へるのか、聞きたらどう。

「女性を管理職に」と言つて来ず、「候補に上げて女性を辞退する」と答へられる。精神的に、いかにいかに辞退する、といふ今の現状だ。まず、女性管理職に就く環境作りが大切だ。



議長は議員をおたね「～君」とおたね「堀江ひこみ君」と。これは男性だけの市会議員だった時代の慣行。

以前、女性議員全員から「～君」とおたねいられるのは女性も「～さん」と呼んで下さい、と申し入れて来た、という話を聞いた。

その時のヤジは、女が「～さん」と呼ばれる程、さうおたねいられるのか！ と保守系議員の席から、あつたそうだ。

土井家院議長の「～さん」の影響から、今副議長は議長席についた時、女性議員に向けて「高瀬あつ子さん」だとおたねい。

青鉛筆



日、福岡県前原市議会で、社会党の男性議員が「先に名前を呼ばれる男性優先の考え方」が大人社会にもある」と、学校教育の大切さを説いた。  
▽前原市内では前原小と加布里小の二校が五十音順で男女を記入する例もあるようだ。

▽「男女平等の男女混合名簿を採用し、等の教育は学怡土小も準備中。その一方で男女別名簿の学校もある」。十八り、実態はまちまち。  
▽榎木昭生教育長の答弁は「個人的には混合名簿は当然と思うが、委員会では慎重な口ぶりながら、「最近では男女を区別しにくい名前があり、名簿に男女を記入する例もあるようだ」。

新聞のコラムで、  
「さういふニュースもみつけました。」



ぼてんら-じんは 今年

東京 *Rape Crisis Center*  
**強姦救援センター**

に心ばかりのガンパを(ました。

ほんの数人の女性の手で10年前はじめられた電話相談が  
今、大きな強い運動になって、とてつもないのです。  
やはり強い活動の大きな力をしめみを感じます

そして左のストーリーにも、  
私達は心から共感しています。

私たちは強姦を次のように定義します。

1. 強姦は、女性に対する支配、征服、所有が性行為という形をとった暴力です。
2. 強姦は、女性が望まない全ての性行為です。

長野の高校で

こんな事があった。

オーストラリアの英語の先生として若い女性がやって来た。県の教育委員会が来た英語を教壇でとやがて招聘し、県下の公立高校を巡回してもらっている人です。

ある教室で最初の授業の後、みんなに「何でもいっとう質問して下さい」と彼女が言った時、男子生徒の1人が「先生のスリー・サイズを教えてください」と、彼女ははじめびっくりしたが、その生徒に「そんな質問をするのは変な事だ」と答えたそう。

その後の職員会の歓迎会の席上、中年の男性教師が「先生のスリー・サイズは？」とまじまじと見てきたので、「日本の男性は何を求めているの？日本はどうしているの？」とみんなに何の口で大勢でとてつないで。

すると質問した男性教師だけでなく、「何であなたにおてつないでくれるの？」と「いぼていいる」  
「あなたに4キになる程のことではない」と口々に「たかだかあなたにたいして、あなたに送る事  
ではなかった」という話になつた。

しかしその後1人の教師が「女性のスリー・サイズを聞くという事は、男の人『あなたの持ち物の  
サイズは？色は？』とよく事と同じ事なのだ」というと男性一同「やっぱりそんな事聞か  
れたらイヤだ〜」という事になつたのだそう。